

平成 15 年度 地震関係基礎調査交付金

伊勢平野に関する構造調査

成果報告書

付録 5 測量作業概要および測量成果

測量作業は、平成16年1月5日に開始し、1月23日に終了した。

調査測線の受振点・発振点の杭の測設ならびに、そのXY座標、標高等を測定するための測量方法は以下の通りであった。

(1) 測線測量

計画測線上に25m(標準)間隔で受振・発振点位置を木杭で表示した。
S波測線は5m間隔。

(2) 多角測量

国家三角点を与点として、測線付近に多角測量及び細部測量を実施した。

(3) 水準測量

多角測量と同時に間接水準測量を実施した。

(4) 使用基準点

本作業で使用した国家三角点、公共基準点を以下に記す。

点名	等級	1/5万地形図名
消防本部	四等三角点	四日市
上海老原	三等三角点	桑名
北川	四等三角点	"

(5) 測地諸元

本作業で使用した測地諸元を以下に記す。

準拠楕円体	GRS80
長半径	6,378,137.000m
短半径	6,356,752.314m
投影法	TM図法
座標系	平面直角座標 第9系
座標原点 緯度	36-00-00 N
" 経度	136-00-00 E
縮尺係数	0.9999
北方加数	0.0 m
東方加数	0.0 m

以下に測量成果を示す。ただし、既存資料の多くは準拠楕円体として BESSEL を用いている場合が多いので、これらとの対比のために、以下のパラメータに変換した結果も併記する(愛知県の結果との対比も考慮し、投影図法は TM 図法 7 系とした)。

準拋橢円体	BESSEL
長半径	6,377,397.155m
短半径	6,356,078.963m
投影法	T.M.図法 7系
座標原点 緯度	36 ° 0' 0" N
座標原点 経度	137 ° 10' 0" E
縮尺係数	0.9999
北方加数	0.0m
東方加数	0.0m